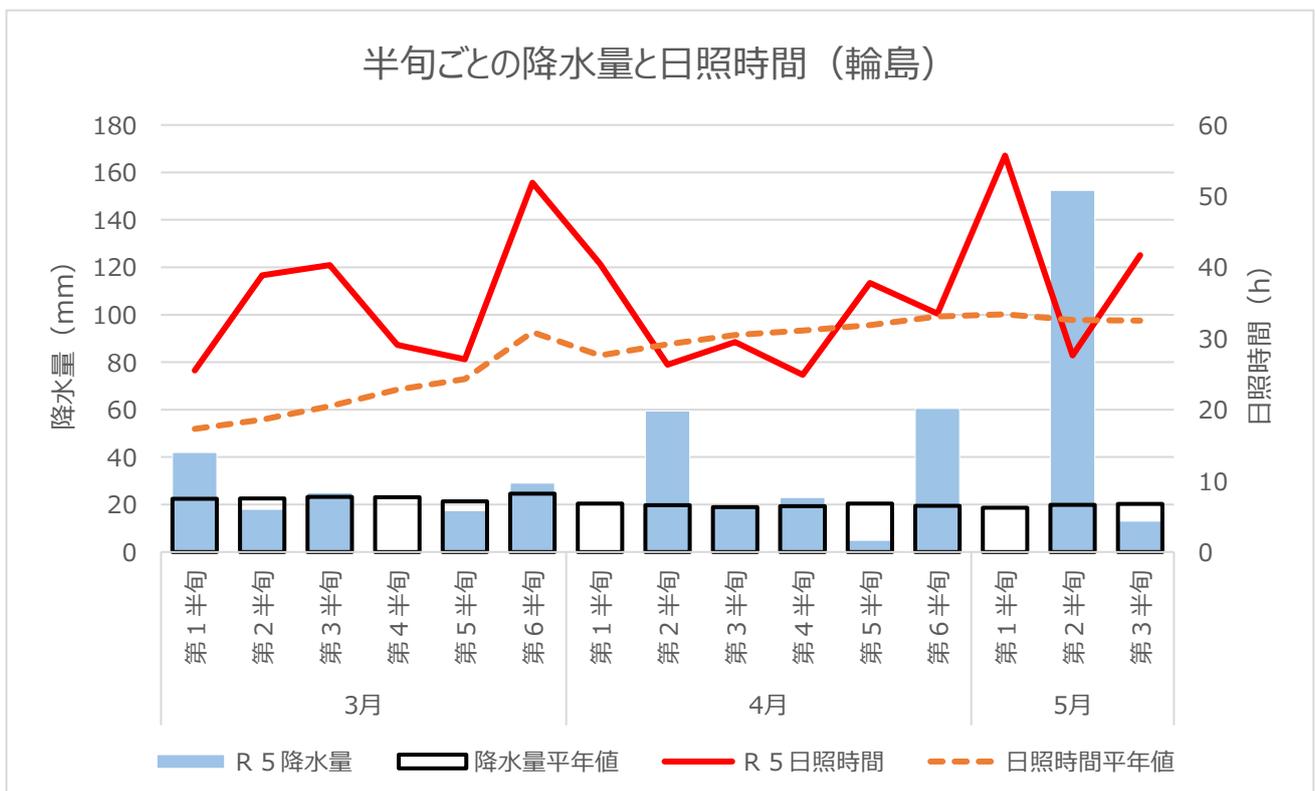
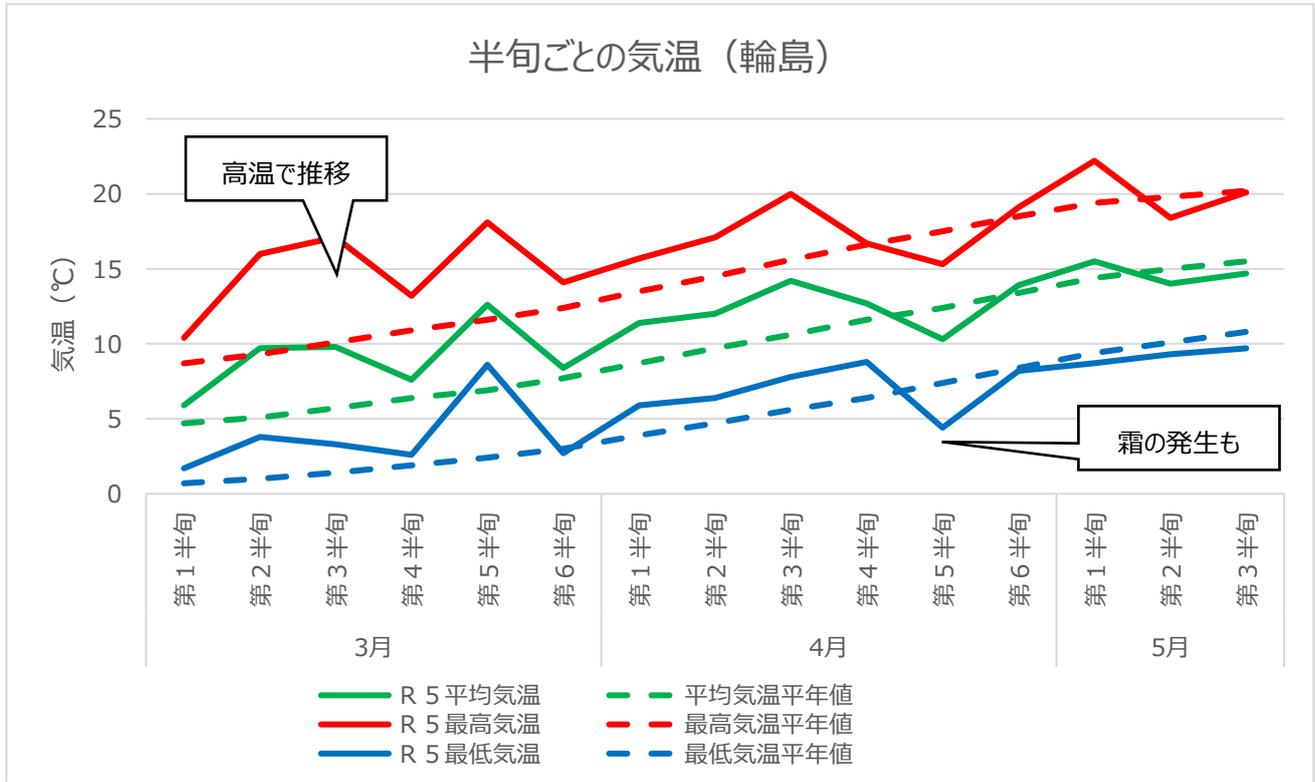


グリーンアスパラガス 栽培管理情報①

令和5年5月24日

JA おおぞら・奥能登農林

1. 気象データ(輪島 3~5月)



北陸地方 1ヶ月予報 (5/18 時点)

気 温：高い確率50%、平年並みの確率20%、低い確率20%
 降 水 量：高い確率20%、平年並みの確率40%、低い確率20%
 日照時間：高い確率20%、平年並みの確率40%、低い確率20%

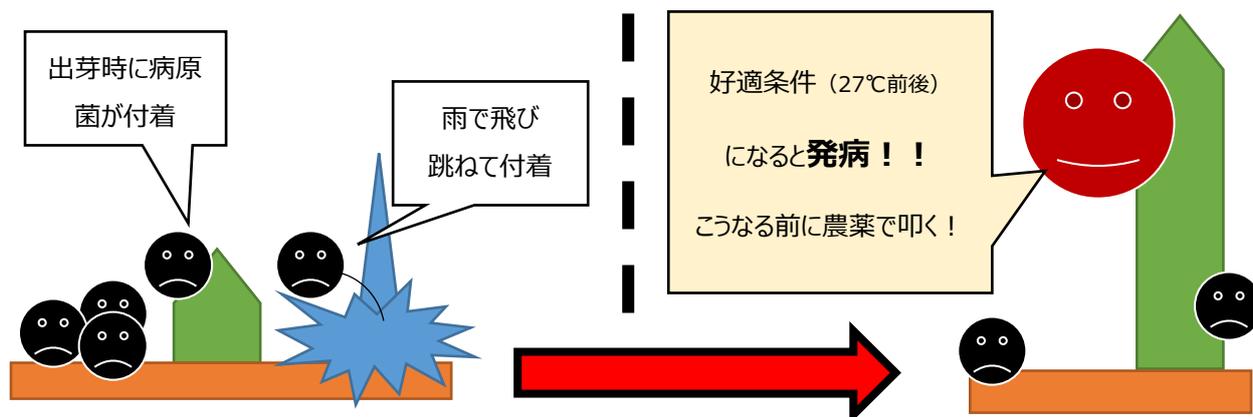
2. 防除

(1) 茎枯病

降雨により地表面の病原菌が飛散、夏秋どりの若茎に感染し株元を中心に発生するため、防除は晴れ間を見計らって防除暦に従い遅れずに実施する。また、茎枯病が発生した茎の除去と同時に、防除を行う。(初夏と秋に発生が多い)

追加立茎、立茎更新を行った場合は、地表面から萌芽する際に病原菌が付着しているおそれがあるので、通常の立茎時と同様、重点的に防除する。

<発病のイメージ図>



<防除体系 (R5防除指針より)>

回数	時期 (防除間隔)	薬剤名
1回目	5月中下旬 (<u>立茎開始時</u>)	ダコニール 1000
2回目	5下~6上 (前回の5~7日後)	ロブラール水和剤
3回目	6/上~中 (前回の5~7日後)	シグナムWDG
4回目	6/中 (前回の5~7日後)	ベンレート水和剤
5回目	6/下 (前回の10~14日後)	コサイド 3000
6回目	7/上 (前回の10~14日後)	ロブラール水和剤

立茎完成前は特に集中して防除!
 (開始から完成まで約1ヶ月かかる。梅雨入り前の完了を!)



地際の病斑
 褐色の病斑の中に多数の小黑点(柄子殻)が見える

(2) ヨトウムシ類

各ほ場でヨトウムシ類の被害が散見されている。
 幼虫が大きくなる(3cm以上)と防除効果が低下するため、
 小さな幼虫を見つけ次第、早期に防除する。



＜薬剤例（R4防除指針より）＞

- ・フェニックス顆粒水和剤
 →残効性は高いが、チョウ・ガ類以外への効果は期待できない
- ・コテツフロアブル
- ・アフーム乳剤
 ※アザミウマ等の定期防除も、ある程度ヨトウムシ類への効果が期待できる

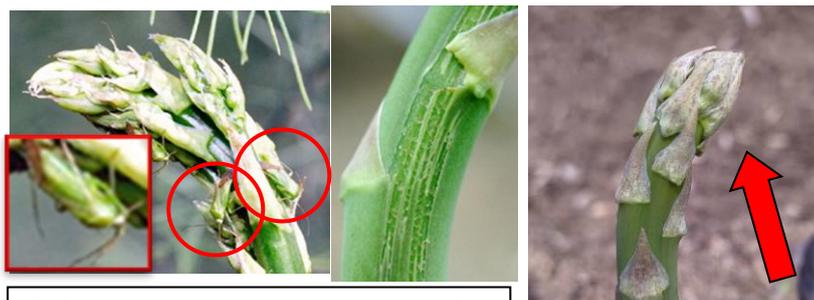
(3) アザミウマ・カメムシ類

アザミウマ・カメムシ類の吸汁により、若莖にかすり状の筋やしおれ、褐変症状が発生する。カメムシは飛行速度が速いため、害虫の活動が鈍る夕方に防除すると効果的。
雑草の中から飛来してくるので、ほ場周辺やほ場内の除草をしっかりと行う。

＜薬剤例（R5防除指針より）＞

- ダントツ水溶剤**
- アドマイヤー顆粒水和剤**
- ・スピノエース顆粒水和剤
- ・アーデント水和剤

※●**印の薬剤は、作用が似ているので連続して使用すると効きにくくなる。**



参考：ツマグロアオカスミカメの被害
 （北海道病害虫防除所HPより）

アザミウマ被害
 （かすり、曲がり）

新たな提案 「ハチハチ**フロアブル**」

（ハチハチ**「乳剤」**はアスパラガスに登録がないので間違えないこと！）

・上記のアザミウマ・カメムシ用薬剤とは**作用機構が似ていない**ので、ローテーション防除に適している。

作物名	適用病害虫	希釈倍率	散布量	使用時期	使用回数
アスパラガス	ネギアザミウマ ツマグロアオカスミカメ	1,000倍	100～800 リットル/10a	収穫前日まで	2回以内

※ 農薬を使用する際は、**必ずラベルを確認**し使用基準を守って使用すること。（**使用期限も!**）

※ 散布後はタンク、ノズル内に農薬が残らないよう、しっかり洗浄すること。

※ 防除は、他の作物へ農薬が飛散しないよう注意して行うこと。

3. 排水対策

土壤水分が高すぎると、湿害で弱ったり、病害が発生しやすい。
また、早期の開き、曲がりなどの障害も出やすくなる傾向にある。
本格的な梅雨の前に、排水溝（明きょ）の点検、手直しを！

- (1) 刈り取った草等が溝をふさいでいないか？
- (2) 泥が流れ込んで勾配が消えてないか？
出口をふさいでないか？



湿害により発生した疫病
(根や地際が腐敗、多湿で拡大)

ポイント：排水溝からさらに外へ、速やかに水が流れ出るように！

収穫後、茎の切り口から水分が充分に出るような
かん水管理が必要だが、上記のように多すぎると
減収の要因となる。

pFメーター（土壤水分計）を持っている場合は、
深さ15cm程度に設置し、pF1.8~2.0程度に
なるように水管理する。

〔 試しに使ってみたい場合は奥能登農林まで！
奥能登農林 法桑：0768-26-2323 〕



pFメーター
赤：乾きすぎ
緑：適正付近
黄：湿りすぎ

4. 追肥（追肥とかん水はセットで）

- (1) 6月末、7月末、8月末にNK17号を1回当たり20kg/10a施用。
- (2) 追肥は8月下旬を最終とする。
→9月以降は養分吸収量が減少、養分転流が遅れるおそれも！

5. 茎葉管理

- (1) 立茎開始から40~50日後に、地際から50cmの高さまでの下枝を除去する。
→夏芽に十分な光を当て、着色と風通しを確保！
- (2) 草丈が140~160cm程度になったら
摘芯する。（風による倒伏防止）

※ (1)(2) どちらも晴天日に行い、
傷口を乾かすとともに、殺菌剤散布で
病害を防止する！

